

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2023 年 4 月 30 日
報告者	坂原美津子
助成団体名 (所属団体名)	NPO 法人スーブル
団体住所	〒 529-1664 滋賀 都道府県 蒲生郡日野町内池 910-5
団体電話番号	0748 — 26 — 0599
代表者 (助成対象者)	坂原美津子
助成対象事業	生きづらさを抱える青年と行う支え合い事業
事業（助成）期間	2019 年 4 月 1 日 ~ 2023 年 3 月 31 日
事業費総額	1,061,849 円
助成金総額	1,000,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は必ず撮影対象の方に事前に了承を頂くようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

当助成事業は、法人に通所するひきこもり等生きづらさを抱えた青年たちと、幾つかの活動を行うものです。青年たちと行うことによって、青年たちも・この事業に参加する方々も、共に支え合い、共に元気になることを目指し実施しました。

以下、それぞれの詳細内容です。

①青年の居場所ピース

*開催日時・・・火・水・木の週3日、10:00～16:00

*目的・・・ひきこもり状態など何らかの生きづらさを抱える青年が、仲間との交流やいろいろな活動を通じて、それぞれを認め合い、本来持っている力や自信を取り戻していく場。

*内容・・・午前中昼食づくり、相談に基づき午後スポーツ・野菜づくり・お菓子づくりなど。また、2019年度には、居場所の若者によるペン画展覧会&カフェを実施。

②ピースこども食堂

*開催日時・・・月1回の17:00～19:00

*目的・・・今年度で4年目を迎え、居場所の青年たちがメニューの考案や当日の調理に関わり、参加する子育て世帯を応援するとともに、青年たちも「美味しかった」と自分のしたことが認められる体験を通して、さらなる自信へと繋げる。

*内容・・・従来は自前の調理で、広く主に子育て世帯を対象に活動場所で食べて帰ってもらう形式の実施だったが、2020年よりコロナ感染症拡大により従来が困難となり、自己資金により、ひとり親家庭対象に飲食店弁当の配布と寄付物品配布に変更。2022年度に、同対象に対して、若者たちとの自前調理による弁当と寄付物品配布(フードパントリー)として実施。

③滋賀ひきこもり女子会

*開催日時・・・月1回の13:50～16:00

*目的・・・ひきこもり状態等の女子が集い、女子ならではの悩みを気兼ねなく話せる場であるとともに、当事者の女子が運営に関わり、チラシづくりやSNSでの広報を担当することを通して、自信に繋げる。

*内容・・・自分を語り、他の人の話を聞いて交流。

④ピースまなびば

*開催日時・・・月1回の14:00～16:00

*目的・・・不登校児童を対象に、自身も不登校の経験のある青年が、学習支援を通じて子どもに居場所を提供するとともに、青年自身の自信へと繋げる。

*内容・・・不登校児童の進学目指しての受験勉強や、日常の学習支援を実施。

⑤青年の居場所ピースナイト

*開催日時・・・2021年度の週1・2回の17:00～20:00

*目的・・・2020年度のひとり親家庭への弁当配布で繋がった親子の中に、コロナ禍で特に経済的・精神的に特に厳しい状況にある子どもたちに、緊急的な支援としてスタッフが寄り添い、少しでも安心して過ごせる環境を用意する。

*内容・・・対象の子どもたちに対して、スタッフがマンツーマンで宿題や分からない箇所の勉強を見るとともに、一緒に買物・調理して食べるを実施。

3、事業成果

以下、全ての内容において、青年が他の青年を・青年が児童を・青年が保護者を支え、支えられた側も、支えた青年たちも元気になりました。

①青年の居場所ピース

参加者・・・延べ約 2,100 人(4 年間)

成果・・・コロナ禍が襲い参加者が減少した時期もありましたが、直接出会えない期間は、直接出会い共に活動することでこそ得、取り戻すことのできる力を改めて感じることとなり、その後の参加者の増加や、関係性の深まりへと繋がりました。

また、一人の青年の作品展と、それを応援すべく実施したカフェは、どの青年もそれぞれの持てる力を発揮するとともに、これまで体験したことのない経験を積む機会となりました。

②ピースこども食堂

参加者・・・延べ約 360 人(4 年間)

成果・・・「月 1 回のこの日が楽しみ」「この日だけは、ゆっくり子どもと向き合いながらごはんが食べられる」など、喜びの声やリピーターで参加される方も多く、さらに寄付物品を集めて、ひとり親家庭の方々に配る仕組みは、行政等もこの仕組みに着目し、2021 年度からは子育て世帯全体を対象とした行政主導の実行委員会形式への発展に繋がりました。

また青年たちも、お弁当の作成や配布・寄付物品の回収・配布などに参加したことで、「ありがとう」と言ってもらえる経験が、自信に繋がりました。

③滋賀ひきこもり女子会

参加者・・・延べ約 250 人(4 年間)

成果・・・10～50 歳代まで、さまざまな環境にある女子が集い、「今まで言えなかったことも、ここなら同じ思いの人たちばかりなので話せてスッキリした」「始めて自分の思いを共感してもらえた」と、生き生きと語り・他の人の話に耳を傾け、それぞれに何か感じて帰っていく姿が見られました。また、中にはひさしぶりに参加した女子の中には、「少し元気になったのでアルバイトを始めた」など、この会に参加したことで元気になり、新たな一歩を踏み出したという報告もありました。

④ピースまなびば

参加者・・・延べ約 130 人(3 年間)

成果・・・中学を終始不登校で過ごしたものの普通高校受験を希望した 3 年生の児童、保健室登校していて勉強に自信のない児童などが集い、それぞれの希望する教科の勉強を、自身も不登校の経験のある運営者の大学院生にフォローしてもらいながら勉強し、皆無事に希望する高校に進学することができました。また、児童にとって同じ経験のある青年の存在は、気軽に悩みを相談したり、少し前に行くモデルとして、児童の背中を押す役割も果たしました。青年自身も、児童が大学進学後も報告に訪れるなど、その後も関わりが続き、頼りにされることが自信に繋がっています

⑤青年の居場所ピースナイト

参加者・・・延べ 18 人(1 年間)

成果・・・家庭に代わる温かい環境を提供することを目指し、少人数制でスタッフがマンツーマンで寄り添う態勢で実施したことにより、当初笑顔や口数の少なかった児童が、次第にここに来るのを楽しみに、よく話し・よく笑って「またね～」と帰っていく姿へと変化していきました。さらに、そうした児童のよい変化が見られることや、数日でも夜に子育てから離れられる期間があることで、保護者の精神的な安定にも繋がり、他の日の家庭の安定にも繋がりました。

4、今後の課題など

この支え合い事業内容全てに共通するところは、それぞれに必要な・安心して居られる居場所を提供するという点にあります。集ってもらうためのツールとして、楽しい活動だったり・食事の提供だったり・女子だけの集まりだったり・勉強を教えるだったり・夜時間を過ごすだったり、の違いはあっても、青年たち・子どもたち・保護者、誰もが日頃抱えている重すぎる荷物を降ろして、この場にいるときだけは、ひとりの自分として、悩みを吐露でき・誰からも丸ごと受け入れてもらい・心から笑い合える、そんな場所を提供しただけとも言えます。

ただ、そんな当たり前のどこにでもありそうな場所は、今あえて作る必要のある場所となっています。なぜなら、誰もが忙しく、他者のことに思いを馳せ・それぞれの違いを認める余裕を奪われるようになり、結果安心して居られる居場所と言える場所が少なくなったことで、その存在が強く求められるようにもなりました。

この様々な形での当法人の居場所というプラットフォームには、一見人との関わりが苦手そうな、ひきこもり状態等の青年たちを中心に、いろいろな人が集まり、それぞれができることで支え・支えてもらう、一方向の支援ではない『支え合い』が自然な形で生まれています。

コロナ禍は、人と対面で出会うことの大切さを再認識させた一方、ひきこもり者を抱える家庭の閉塞感や、ひとり親家庭の困窮など、もともと存在した社会や家庭等の問題を改めて明らかにしました。

今後私たちに求められているのは、数々の社会課題に今一度目をむけ、民間のネットワークの軽さを生かし、徹底して当事者の声を聞いたうえで、それぞれが一步踏み込んで自分たちができることに取り組み、実践を積み上げ、公的な仕組みへと続くムーブメントを作っていくことだと考えます。

その到着点に達するまで、団体の努力が求められる長い道のりを、資金面で応援してくださる助成金の存在は必須であり、その応援を心強く期待するところです。

以下、それぞれの課題を整理します。

①青年の居場所・まなびば

先日公表された146万人とも言われる、ひきこもり者の若者たちのことをより知ってもらい、地域の理解者を増やして誰もが住みやすい地域や社会となることを目指して、若者たちがより主体性を発揮した若者たちならではの取り組みの充実

②こども食堂・居場所ナイト

食を通じた垣根の低い取り組みとしての重要性が高まる中、あらゆるものの価格の上昇によりさらなる運営努力が求められる一方、複雑な課題を抱える家庭への対応が表面化したことによる援助の形及び行政との連携の模索

③女子会

語り合いだけでなく、それぞれのできることで参加者同士で何かしたいという声に対する具体化への模索